



# ビハーラ山陰

第4号【平成29年7月1日】

発行元  
事務局

浄土真宗本願寺派 山陰教区教務所

〒690-0002 島根県松江市大正町443-1 本願寺山陰教堂内  
TEL 0852-21-4747 / FAX 0852-27-8351

## 暮らしの中のビハーラ



ビハーラ山陰  
会長 三谷卓良

ドイツ人の哲学者アルフォンス・デーケンは、少年時代に妹を病気で亡くし、親友を連合軍の空爆で8人家族もろともに焼き殺された。

「いのち」その生と死が生涯の重い課題となり、大学で哲学を学びながら、病院でのボランティア活動で余命数時間という患者と向き合わされた。

しかし何か話題をみつけて話す状態ではなかった。ただ黙ってベッドのそばに坐ることしかできなかった。やがてその患者はお礼を言うように、笑って安らかにいのちを閉じたという。

デーケンは百の言葉より、そこに「ともにいる」ことの重さを感じたという。そこに「ともにいる」ことのありがたさ／ともに悲しみ／ともに苦しみ／ともに泣き／ともに喜び／ともに楽しみ／ともに笑う／すべてをともにするところに／ともに生きる世界が開かれる／ビハーラはいつもあなたとともに…。

ビハーラは、人びとの悲しみ、苦しみ、辛さ、苦難、苦悩に寄り添いたいとの願いをもって、傾聴し、そしてしっかりと受容し、響きあい響感していく念仏者の社会実践活動です。このことを通して、様々なことに気づかされ、学ばされ、人として心が育てられていく活動だと思います。

さらに、念仏者の社会実践活動の輪を広げ、仲間づくりのために、①新規会員とビハーラ活動者養成研修会修了者の加入促進 ②寺院や組での組織化

と活動推進を、皆さんのお力添えをいただきながら、図りたいと思います。

そして、一人であっても一人にしない、家庭で、地域で、施設で、病院で、念仏者の社会実践活動として、暮らしの中でのビハーラを、ともにさせていただきます。

寄り添うことは難しいことですが、寄り添いたいとの願いをもって、ふれあうことが大切なことではないかと思ひます。一人であっても一人にしないために、ビハーラをともにさせていただきます。

2016(平成28)年度  
ビハーラ山陰公開講座の様子

